

タイトル	アクロイドを殺したのはだれか				
著者名	ピエール・バイヤール	出版者	筑摩書房	発行年	2001
請求記号	B933K 3815		資料ID	1189732	

✿先生からの推薦資料紹介✿

みなさんはミステリーはお好きですか？

物語の筋を追いながら犯人を推理するのは、ミステリーファンにとって至福のひとつです。フランスの精神分析家ピエール・バイヤールは本書において、推理小説史上屈指の名作であるアガサ・クリスティー『アクロイド殺害事件』

（1926）を読み直します。本作のトリックは推理小説というジャンルにおける一種の禁じ手であり、それゆえに本作のヒットは世界中に「フェア・アンフェア論争」を巻き起こしました。バイヤールはこの問題作に対して、別の角度から新たな問いを突きつけます——事件の犯人は本当に、名探偵ポワロが指摘した人物なのだろうか？

もしほかに真犯人がいるとすれば、それは誰なのでしょう？

名探偵がミスを犯すなどということがありうるのでしょうか？

そもそも推理小説にそんな読み方が可能なのでしょうか？

バイヤールは推理小説の構造を論理的に分析することで、これらの問いに一つ一つ

答えてゆきます。それによって、推理小説というジャンルに

新たな光を当てるとともに、読書という行為そのものの謎

（ミステリー）を解明してゆくのです。

